

## 第2回連携協議会

10月8日(水)に甲佐高校視聴覚室において、第2回連携協議会を開催し、これまでの取組の報告と研究の進め方について協議を行いました。

職員・生徒アンケートや公開授業、合同研修での意見交換等を参考に、本後の研究の進め方として、4つの提案をしました。併せて、共同学習の授業づくりのツールとしての「ワクワク交流及び共同学習検討シート(略称:ワクワクシート)」「共有スペース(ワクワクルーム)」についてもカリキュラムマネージャーから説明しました。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 交流及び共同学習の具現化  | 2 職員研修の充実 |
| 3 地域との連携強化と地域貢献 | 4 検証授業の実施 |

委員の方々からは、次のような意見をいただきました。

- ワクワクルームの設置については、教師がどこまで見守るか難しい点はあるが、安全・安心が確保されたうえで、生徒の自然な交流の機会は必要。
- 共同学習として、音楽から始めるのは良い。この授業を見て他教科の先生も、自分ごととして考える機会となればよい。
- 商業施設を利用した、インターンシップ・現場実習の実施など、地域の協力を得ながらできることもあるのでは。
- 2校で1つの取組を進めるには、不安要素・懸念材料があるのは無理はない。対話を重ねることが重要。その積み重ねが信頼・相互理解を構築していくと思う。お互いの人材や外部人材を活用することで、負担感が軽減すれば良い。
- それぞれの得意分野を提供し、共有し、授業の質の高まりを期待する。
- 生徒同士は、私たちが持っている以上にすぐに仲良くなれるのでは。ハード面、時間割のずれなど、少しでもハードルを下げていければと思う。

協議の後半は、九州ルーテル学院大学の河田将一教授から、「交流及び共同学習の推進に向けて」というテーマでスライドを使いながら、法的根拠、基本的な考え方や研究の進め方についてご助言をいただきました。一部を紹介します。

- 負担にならない範囲で、甲佐高校は「特別支援教育の視点」、上益城分教室は「教科指導の視点」を入れた、指導案を作成してほしい。

- 両校の職員の交流が深まると、生徒にもよい影響が出る。両校の職員の話し合いの方法として、SWOT 分析を使用してはどうか。両校がそれぞれにとって、強力な外部環境としての協働の機会(チャンス)や強みとなる。



○共有スペースが、生徒にとってゆっくり過ごせる場所、誰からかの支援を受けられる場所になると良い。

河田教授には「ワクワク」という言葉に注目していただき、「課題は解決に向かうためのワクワクするものであり、相互にワクワクしながら和やかに進むと良い」とお言葉をいただきました。

#### **公開授業** 10月23日(木)、27日(月)、30日(木)

高校内に分教室を設置している高校、特別支援学校、連携協議会委員の方々を招いて、甲佐高校文化祭「青垣祭」に向けた共同学習「音楽科」の取組を見ていただきました。授業参観後は、情報交換会を実施し、本事業の説明や各校での取組の様子、成果と課題など意見交換を行いました。それぞれ設置された時期、地域の実情や地理的環境が異なり、取組の様子にも幅がありますが、交流及び共同学習の意義についてはそれぞれが認めるところであり、推進したいという意見が出されました。実施上の課題として、授業の目標設定や評価の視点の共有、打合せの時間確保、時間割の調整の困難さ等があげられました。ご参加いただいた方々にお礼申し上げます。



#### **青垣祭** 11月7日(金)・8日(土)

甲佐高校の芸術選択生徒・分教室生徒との合同発表は8日に行われました。「平和」のテーマの下、合唱・合奏・ダンス・手話等を披露しました。

生徒たちは、分教室ホールや体育館で演目の一部「風になりたい」の合同の練習を行ってきました。最初はぎこちなかった生徒も本番では練習の成果を十分に発揮し、会場からたくさんの拍手をいただきました。やり終えた生徒の顔は達成感と喜びに輝いていました。

合奏・合唱のほかにナレーションを担当する生徒もあり、両校の生徒が自然にかかわる姿が、青垣祭をとおして随所で見受けられました。この実践が本事業の推進力となることを期待します。

